

ありがとう集会に向けて

子ども達に「ありがとう集会は何をするの?」と尋ねる、例外なく笑顔になって「あのね・・・」と話し出してくれます。6年生に笑ってもらえるかな、喜んでもらえるかなと、小さな胸をドキドキさせて自分の役割を果たさなくてはという気持ちをもっている子ども達です。6年生は、きっと場の雰囲気を読んでリアクションをしてくれることでしょう! 台上にいる子ども達の心情を慮る心もすっかり育っています。

また、体育館に掲示する飾りも皆で協力して仕上げています。こちらも金曜までには完成です。そして当日は、体育館後方に、本校児童作成の立体作品も展示します。ぜひ、時間がある時に鑑賞されてください。



当日は真冬の寒さという予報が出ています。暖かい服装をしてお出かけください。

学習のアナログ化

第4回の学力向上だよりは、家庭学習を「**学習のアナログ化**」するという視点で福田教務に書いてもらっています。①**デジタルオフ** ②**学習サポート**③**書くことや読むこと**の3点です。

デジタル時代ではあり、その重要性はもちろん理解し、推進しています。しかし、脳の活性化という点においては、デジタルだけでは不十分なことは、様々なデータが示している通りです。

脳の発達には、時間と手間がかかりますが、やはり「読み書き」が重要です。読書は「脳の全身運動」(引用:川島隆太「本を読むだけで脳は若返る」)という言葉があるように、読書や音読は、脳全体を使い、活性化してくれます。これは、あらゆる力に派生していく基盤となる活動です。また、書く活動は、脳のあらゆる部位を使う脳にとっては負荷が高い活動ですが、だからこそ活性化していくと言えるのではないのでしょうか。

教育活動を進めるにあたり、脳の活性化のためにはという視点をもって取り組むことが重要であることを、陰山先生や脳科学者の川島先生から学び、実践してきました。

新しい細胞がどんどん入れ替わり、成長の黄金期にある子ども達に何をさせて、何をさせないかの選択は、大人として明確にもっておきたいことです。

一年を通し、皆様に提示してきた「**修正力・再現力**」「**学習のルーティン化**」「**学習のアナログ化**」。これらは来年度以降も**西部小の家庭学習の拠り所**としていただければ幸いです。

しっぽがない小さなごんぎつねでした

先日、窓辺に置かれた花のことを書きましたが、月曜日はちゃんと、椿の花をもってきてくれました。大庭さん姉姉と、小林さん、末次さんと名前は出さないでとのプラス1人でした。校長室に飾らせてもらいました。ありがとう!

入賞おめでとう!

- ◆教育美術展 入選 米光しゅんと
- ◆立体作品展
- 県特選 2年 山田ゆあ
- 3年 加藤りょうが
- 県準特選1年 井手こうし 中村みか
- 5年 江口みり
- 6年 古川ななさ 山本ひゅうが

SNS等の影響が心配されます

子ども達のライン使用率は、学校では把握はしておりませんが、相当行われているのではと懸念しているところです。SNS等の利用は、現実と仮想世界の区別が未分化な子ども達にとってボーダーが曖昧になり、現実を直視できなくなる危険があります。

使用については、ご家庭でルールを設定していただくと共に内容については、**保護者の方が閲覧可能である**ことが必要だと思えます。危険なサイト、トラブルに巻き込まれていないかは絶えず目配りが必要だと感じております。少々痛みを伴うことがあるリアルなコミュニケーションこそ、この時期の子ども達に心の発達を促すと思えます。

